

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職活動対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職活動対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	TAKEOFF		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に参加する目的を理解し、社会人として（現場で）必要なスキル・考え方を習得する。 ・就職活動の流れを知り、すぐに動き出せる準備をする。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現場で問題が起こった際、上司や教員と連携を取り、状況に応じて適切な対応をすることができる。 ・就職活動や実習中に、自分の意見や考えを分かりやすく相手に伝えることができる。 ・就職活動に向けて自己分析を行い、自身の強みを分かりやすく相手に伝えることができる。 				
評価基準	発表点40%、提出物30%、授業態度30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目	インターンシップ実習Ⅰ、未来デザインプログラム、プレゼンテーション基礎				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	中村 祐大		実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	インターンシップ実習①	<ul style="list-style-type: none"> ・年間スケジュールの確認 ・実習の目的を理解する。 ・実習先の決定方法について知る。
2	インターンシップ実習②	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での心構えを学ぶ。 ・実習報告書、実務経験実績表の記入、提出方法を知る。

3	インターンシップ実習③	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での心構え、マナーについて学ぶ。 ・先輩からのアドバイスを聞く。
4	社会人基礎力①	社会人（実習先）に必要なスキル、考え方を知る。
5	社会人基礎力②	社会人（実習先）に必要なスキル、考え方を知る。
6	社会人基礎力③	社会人（実習先）に必要なスキル、考え方を知る。
7	業界研究①	将来の職種、就職活動、就職後の状況について理解する。
8	業界研究②	将来の職種、就職活動、就職後の状況について理解する。
9	業界研究③	将来の職種、就職活動、就職後の状況について理解する。
10	業界研究④	将来の職種、就職活動、就職後の状況について発表する。
11	インターンシップ実習④	実習での経験を振り返り、発表をする。
12	インターンシップ実習⑤	実習での経験を振り返り、実習の目的の再確認する。
13	自己分析①	自分史を作成する。 ①エピソードを思い出す
14	自己分析②	自分史を作成する。 ②エピソードを分析する
15	自己分析③	自分史を作成する。 ②エピソードを分析する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職活動対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職活動対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	TAKEOFF		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に参加する目的を理解し、社会人として（現場で）必要なスキル・考え方を習得する。 ・就職活動の流れを知り、すぐに動き出せる準備をする。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現場で問題が起こった際、上司や教員と連携を取り、状況に応じて適切な対応をすることができる。 ・就職活動に必要な書類（履歴書・ジョブカード）が作成できる。 ・就職活動生としてふさわしい身だしなみが理解できている。 ・就職活動や実習中に、自分の意見や考えを分かりやすく相手に伝えることができる。 				
評価基準	発表点40%、提出物30%、授業態度30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目	インターンシップ実習Ⅰ、未来デザインプログラム、プレゼンテーション基礎				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	中村 祐大		実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	就職活動の流れ	就職活動の基本的な流れを知る。
2	身だしなみ指導	実習・就職における身だしなみの確認をする。
3	就職活動について① (履歴書作成)	履歴書の書き方を学ぶ。
4	就職活動について② (履歴書作成)	履歴書の書き方を学ぶ。
5	就職活動について③ (ジョブカード作成)	自己紹介文(ジョブカード)の作成方法について知る。
6	就職活動について④ (ジョブカード作成)	自己紹介文(ジョブカード)を作成する。

7	面接練習 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・面接試験の種類（個人面接、集団面接）を知る。 ・面接試験の目的（面接で何を見られているか）を理解する。
8	面接練習 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・面接試験の入退室の仕方を知る。 ・面接試験の回答を考える。※面接の実践は、プレゼンテーション基礎で行う
9	証明写真	証明写真撮影に向けて、注意点を知る。（身だしなみ・表情等）
10	就職活動実践①	<ul style="list-style-type: none"> ・求人票の見方を学ぶ。 ・就職指導室の使い方（各校ルール）について知る。
11	企業研究①	気になる企業について調査する。
12	企業研究②	自分の志望動機を作成する。
13	筆記試験対策	SPI、適性検査の内容を知り、勉強方法を理解する。
14	就職活動実践②	就職活動の具体的な計画を立てる。 （就職活動の方法の確認、春休みの動きの確認）
15	まとめ	1年間の振り返り、就職・実習の目標設定をする。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	インターンシップ実習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップ実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	5	200
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・登録販売者資格取得にあたり必要な実務経験を積む。 ・実習を通して、登録販売者に必要な知識や技術を身に着ける。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に働く現場の店長やその他スタッフにとって、一緒に働きたいと求められる働きをする。 ・販売員としての接客対応スキルを活かし、お客様対応がスムーズに出来る。 ・一般用医薬品の知識を他者に説明する。 				
評価基準	企業側評価：80%(事項別評価75点、総合評価5点)、学校側評価(レポート)20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者				
関連科目	就職活動対策Ⅰ,Ⅱ				
備考	原則、現場での実習形式として実施する。				
担当教員	中村 祐大		実務経験		
実務内容					

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン基礎Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン基礎Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	30時間でマスターWord 30時間でマスターExcel パソコン技能検定 対策問題集 3級 パソコン技能検定 模擬問題集 3級 パソコン技能検定 対策問題集 2級			出版社	実教出版 実教出版 三幸学園 三幸学園 三幸学園

科目の基礎情報②

授業のねらい	タッチタイピングを習得し、早く正確な入力を身につける。 また、Word・Excelの操作などを習得し、実際の業務に役立つスキルを身につける。				
到達目標	10分間に350文字以上のスピードで文字を入力することができる。 ビジネス文書入力をスムーズにできる。 パソコン技能検定3級取得・2級レベルの操作ができる。				
評価基準	課題提出40%、小テスト30%、授業態度30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	パソコン技能検定3級(必須)、2級、準1級(任意)				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大森富士枝		実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入・概要・タッチタイピング	授業のねらい・年間の授業予定等説明・検定について Windowsの基礎(OSについて)・Wordの初期画面・各部名称 タッチタイピングの方法と必要性
2	タッチタイピング Wordの基礎・基本入力	タッチタイピング(繰り返し練習・ホームポジション) 変換、文節区切りの変更、再変換、ファンクションキーなど
3	タッチタイピング・基本入力	タッチタイピング(繰り返し練習・上段) 記号と特殊文字、手書き入力、IMEパッドなど

4	タッチタイピング・基本編集	タッチタイピング（繰り返し練習・下段） フォント、フォントサイズ、文字修飾、コピー、貼り付けなど
5	タッチタイピング・入力練習	タッチタイピング（仕上げ） 教科書の入力問題等で正しく速い入力を強化する 入力スピード練習（10分・問題集使用）
6	ビジネス文書の基本	入力スピード練習（10分） ビジネス文書の基本型と入力の仕方を覚えさせる
7	表作成	入力スピード練習（10分） 表作成の説明（挿入、行列の挿入削除、列幅行高の変更、セルの結合分割、線種の変更、文字の配置など）
8	文書作成①	入力スピード練習（10分） 文書作成問題練習（問題集使用）
9	文書作成②	入力スピード練習（10分） 文書作成問題練習（問題集使用）
10	テスト（Word）	学科問題（問題集から出題） 入力問題（10分間） 文書作成問題（25分間）
11	Excelの概要・データ入力	入力スピード練習（10分） Excelの初期画面、基本データ入力、オートフィル機能、罫線、四則計算など
12	Excel基本復習、基本的な関数	入力スピード練習（10分） Excel基本復習 SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照
13	グラフ	入力スピード練習（10分） グラフの作成（棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ） グラフ要素（タイトル、軸ラベル、凡例など）
14	テスト（Excel）	入力スピード練習（10分） Excelの確認テスト（基本が理解できたか確認する） 表作成練習問題（問題集使用）
15	パソコンの知識	検定の筆記対策として、五大機能、基本ソフト、応用ソフト、記憶容量など、学科問題に必要な知識を説明する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン基礎Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン基礎Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科		30
使用教材	30時間でマスターWord 30時間でマスターExcel パソコン技能検定 対策問題集 3級 パソコン技能検定 模擬問題集 3級 パソコン技能検定 対策問題集 2級		出版社	実教出版 実教出版 三幸学園 三幸学園 三幸学園	

科目の基礎情報②

授業のねらい	タッチタイピングを習得し、早く正確な入力を身につける。 また、Word・Excelの操作などを習得し、実際の業務に役立つスキルを身につける。				
到達目標	10分間に350文字以上のスピードで文字を入力することができる。 ビジネス文書入力をスムーズにできる。 パソコン技能検定3級取得・2級レベルの操作ができる。				
評価基準	課題提出40%、小テスト30%、授業態度30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	パソコン技能検定3級(必須)、2級、準1級(任意)				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大森富士枝		実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期復習	入カスピード練習(10分) 文書作成問題・表計算問題
2	表作成練習①	入カスピード練習(10分) 表作成問題練習(問題集使用)
3	表作成練習②	入カスピード練習(10分) 表作成問題練習(問題集使用)

4	パソコン検定3級対策①	検定試験の実施手順の説明 数式印刷の説明 入力問題、文書作成問題、表計算問題の練習
5	パソコン検定3級対策②	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
6	パソコン検定3級対策③	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
7	パソコン検定3級対策④	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
8	Wordのいろいろな機能①	入力スピード練習（10分） 図形（挿入、図形の塗りつぶし、枠線、効果など） ワードアート（スタイルの変更、色、輪郭、効果など） 画像（挿入、オンラインでの挿入、色、アート効果、文字列の折り返しなど） 説明後、図形、ワードアート、画像などを使用した練習問題（お知らせや掲示物など病院での業務に関連したもの）
9	Wordのいろいろな機能②	入力スピード練習（10分・2級問題集使用） 段組み、ドロップキャップ、割注など さまざまな形式の文書作成問題（2級問題集使用）
10	Wordのいろいろな機能③	入力スピード練習（10分・2級問題集使用） 文書作成練習（2級問題集使用）
11	Excelのいろいろな関数④	入力スピード練習（10分・3級問題集使用） COUNT、RANK.EQ、ROUND、IFなど
12	Excelのいろいろな機能①	入力スピード練習（10分・2級問題集使用） 条件付き書式、複合グラフ、表作成問題（2級問題集使用）
13	Excelのいろいろな機能②	入力スピード練習（10分・3級問題集使用） VLOOKUP
14	Excelのいろいろな機能③	入力スピード練習（10分・3級問題集使用） VLOOKUP
15	まとめ	1年間のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	接客スキルⅠ			
必修選択	選択	(学則表記)	接客スキルⅠ			
開講					単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科		2	30
使用教材	①サービス接客検定2級公式テキスト ②サービス接客検定1・2級実問題集 第43回～47回		出版社	①～②早稲田教育出版		

科目の基礎情報②

授業のねらい	ビジネスマナーの基本を習得し、サービス接客を行うのに必要な知識と技能を身につける 「お客様第一」で仕事をする意識を常に持ち続ける大切さを理解する				
到達目標	適切な敬語を使うことができる 対人関係において必要な対人スキルを実践することができる 状況に応じた対応（TPOに合わせた適切な行動・協調・臨機応変さ）ができる				
評価基準	期末テスト50% 小テスト30% 授業態度（取り組み・参加姿勢と理解度）20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	サービス接客検定 秘書技能検定 ビジネス文書技能検定				
関連科目	接客スキルⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	田村 亜希子		実務経験	○	
実務内容	一般企業にて役員秘書として5年勤務。 主に接客業務・スケジューリング・会議資料作成などに従事。				

各回の展開

回数	単元	内容
1	ビジネスマナーについて	教科の学習目的と到達目標について 実習先あいさつや就職活動をイメージしたお辞儀・立ち方・座り方・入退室を実践
2	サービス接客検定について	サービス接客検定2級・準1級について
3	サービススタッフの資質① 敬語①	サービス業における必要な要件について 敬語について①
4	サービススタッフの資質② 敬語②	「お客さま第一」の考え方に基づく行動・態度について 敬語について②
5	専門知識① 敬語③	サービスの意義と役割意識について マニュアル対応と例外的な対応について 敬語について③

6	専門知識② 敬語④	商業用語、経済用語について 専門的な用語と伝統的な言葉および販売用語について 敬語について④
7	一般知識① 敬語⑤	ことわざとその意味、慣用句、菓子の種類、書き表し方、物の数え方について 敬語について⑤
8	一般知識② 敬語⑥	時事用語について 敬語について⑥
9	対人技能①	人間関係の基本としての愛嬌・愛想、あいさつについて 接客者としての礼儀に添った服装・言葉遣いや態度振る舞いについて
10	対人技能②	あらゆる場面での適切な接客用語について
11	実務技能①	お客さまの事情を考慮した対処の仕方と問題処理の基本について
12	実務技能②	店舗環境を整え、お客さまをもてなすことについて 金品の管理・搬送の一連の行動や作業について
13	実務技能③	祝儀袋・不祝儀袋の表書き、水引の種類について お見舞い、お供え、贈り物の知識と慶弔時の服装について
14	期末テスト	期末テストの実施
15	前期の振り返り	前期のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	接客スキルⅡ			
必修選択	選択	(学則表記)	接客スキルⅡ			
開講					単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科		1	30
使用教材	①サービス接客検定2級公式テキスト ②サービス接客検定1・2級実問題集 第43回～47回			出版社	①～②早稲田教育出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	ビジネスマナーの基本を習得し、サービス接客を行うのに必要な知識と技能を身につける 「お客様第一」で仕事をする意識を常に持ち続ける大切さを理解する				
到達目標	適切な敬語を使うことができる 対人関係において必要な対人スキルを実践することができる 状況に応じた対応（TPOに合わせた適切な行動・協調・臨機応変さ）ができる				
評価基準	期末テスト50% 小テスト30% 授業態度（取り組み・参加姿勢と理解度）20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	サービス接客検定 秘書技能検定 ビジネス文書技能検定				
関連科目	接客スキルⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	田村 亜希子		実務経験	○	
実務内容	一般企業にて役員秘書として5年勤務。 主に接客業務・スケジュールリング・会議資料作成などに従事。				

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期の振り返り 問題実践①	前期の復習 サービススタッフの資質について復習
2	問題実践②	専門知識・一般知識について復習
3	問題実践③	対人技能について復習
4	問題実践④	実務技能について復習①
5	問題実践⑤	実務技能について復習②
6	検定対策①	検定試験に向けた対策①

7	検定対策②	検定試験に向けた対策②
8	日本のしきたり	暦・月の別称・日本の祝日・年中行事や冠婚葬祭の種類とマナーについて
9	言葉遣い	自己紹介するときの丁寧な言い方やお客さまに対しての丁寧な言い方について
10	一般常識	商業用語や経済用語、社会常識と時事用語、ことわざおよび慣用句について
11	職場での対応	上司と部下、先輩と後輩、同僚間でのコミュニケーションについて
12	お客様対応	効果的な対応、愛嬌・愛想ある対応、気配りのある対応の対処について
13	電話対応	予約や問い合わせの受け方、クレーム対応と留守番電話対応について 電話の取り次ぎ、伝言について
14	期末テスト	期末テストの実施
15	1年間の振り返り	1年間の総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	7つの習慣Ⅰテキスト、夢のスケッチブック		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	社会人としてあるべき人格を高め、自身および他者へのリーダーシップを醸成し主体性を発揮する人材を育成する				
到達目標	「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する				
評価基準	小テスト／レポート：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	なし				
関連科目	キャリア支援／就職対策等				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	水野 綾香		実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	未来デザインプログラム授業への価値付けを行い、日誌を書くことの意味や今日から実行できる機会を考える
2	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの概念を知り、自分制限パラダイムを取り払った状態で行動が継続できる様を考える
3	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解すると共に、自分自身への約束を守る大切さを学ぶ
4	刺激と反応	刺激と反応の考え方を理解し、どの様な状況でも一時停止ボタンを使い主体的に判断・行動していくことの大切さを考える
5	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
6	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にし、今自分がやるべき事、考えるべき事を優先順位を考えながら整理していく大切さを学ぶ
7	選んだ道と選ばなかった道	自分の選択は自分の気持ち次第であり、自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ

8	【SDGs】とは？	国際目標であるSDGsとは何か？ またそのゴールは何かを学び、自分できることを考える
9	人生のビジョン	10年後のなりたい自分を考えることにより、スタプロで考えた「卒業時の姿」をより具体的に考える
10	自分の価値観を知る	なりたい姿を鮮明にすることの大切さを知り、自分の価値観を深掘りすることで、将来のなりたい姿を具体的にイメージできるプロセスを学ぶ
11	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ。自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
12	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
13	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
14	私的成功の振り返り	主に私的成功の習慣（前期授業内容）の復習（知識確認）
15	成功するための原則	前期の総括とともに、あきらめないことの大切さを考えセルフモチベーションを高めていく

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	7つの習慣Jテキスト、夢のスケッチブック		出版社		
科目の基礎情報②					
授業のねらい	社会人としてあるべき人格を高め、自身および他者へのリーダーシップを醸成し主体性を発揮する人材を育成する				
到達目標	「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する				
評価基準	小テスト／レポート：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	なし				
関連科目	キャリア支援／就職対策等				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	水野 綾香		実務経験		
実務内容					
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを理解させる			
2	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ			
3	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、理解してから理解するという考え方があるということを学ばせる			
4	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があるということを伝える			
5	自分を磨く	自分を磨くことの大切さを伝え、具体的な行動を考えさせる			
6	過去の自分とこれからの人生	具体的なライフプラン・人生の目的/目標設定に繋がるモチベーションを引き出す			
7	人生ビジョンを見直そう	望む生活をするためにお金が必要であることを知り、現実的なライフプランが大切であることを理解させる			

8	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
9	未来マップを作ろう②	未来マップを発表し合うことで、自身の夢を宣言し、実現に向けた決意を促す
10	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える機会とする
11	X Yゲーム	ゲームを通じて未来デザインプログラムで学んだことを常に応用することは難しいということ学ぶ
12	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラム授業で学んだことの復習（知識確認）
13	後期の総括	後期の総括と2年生にむけてモチベーションを高める
14	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度も頑張ろうと決意させる
15	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度も頑張ろうと決意させる

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	プレゼンテーションⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーションⅠ		
		開講	単位数	時間数	
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	(共通プリント、各校独自資料)		出版社	—	

科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・就職や実習はもちろん、普段の学校生活におけるコミュニケーション能力を身に付ける ・自己の意思・考えを分かり易く相手に伝える能力、相手の話を聞き主張できる能力を身に付ける ・学生が業界・職種について自ら考え発表する機会を設けることで、業界・職種への理解を高め、なりたい職業イメージを明確化する 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人前で自分の意思・考えを分かり易く話すことができる。 ・業界・職種への理解を高め、なりたい職業イメージが明確になっている。 				
評価基準	発表：70% 小テスト・提出物：30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	中村 祐大		実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	プレゼンテーションとは	・傾聴とは ・アクティブラーニング
2	話す時の心構えと基本	・ピクチャーフィギュア ・思考力と表現力
3	表情（表現力）	・第一印象(メラビアンの法則) ・表情チェック ・即題スピーチ
4	思考力①	・思考力とは ・ストーリー構成の型 ・いろいろな立場
5	思考力②、表現力	・ストーリー構成の三原則 ・PREP法 ・show&tell
6	自己判断、自己分析	・思考力、表現力のセルフチェック ・改善点を知る

7	ディスカッション	・グループディスカッションの基本
8	業界・職種・仕事内容 研究①	・個人で調べ、まとめる
9	業界・職種・仕事内容 研究②	・グループ内で個人発表
10	業界・職種・仕事内容 研究③	・個人発表を基に、グループで調べまとめる
11	業界・職種・仕事内容 研究④	・個人発表を基に、グループで調べまとめる
12	業界・職種・仕事内容 研究⑤	・グループ毎で発表(動画撮影を推奨)
13	発表の振り返り	・思考力、表現力について自己評価、他者評価を実施
14	振り返り	・内容の振り返り ・確認テスト
15	即題スピーチ	・長所、前期努力したこと等 (自己紹介文、履歴書作成につなげられるような内容が好ましい)

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	プレゼンテーションⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーションⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	(共通プリント、各校独自資料)		出版社	—	

科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・就職や実習はもちろん、普段の学校生活におけるコミュニケーション能力を身に付ける ・自己の意思・考えを分かり易く相手に伝える能力、相手の話を聞き主張できる能力を身に付ける ・学生が業界・職種について自ら考え発表する機会を設けることで、業界・職種への理解を高め、なりたい職業イメージを明確化する 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動や職場等で人前で発表できる。 				
評価基準	発表：70% 小テスト・提出物：30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	中村 祐大		実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	自分自身を知る①	・4つの自分(ジョハリの窓) ・自己PR文作成
2	自分自身を知る②	・自己PR発表(動画撮影)
3	自己分析①	・自己分析の理解
4	自己分析②	・自己分析づくり
5	模擬面接	・模擬面接(ビデオ撮影)
6	発表の振り返り	・自己PR、模擬面接の振り返りを実施
7	実習・就職指導①	企業研究・模擬面接・グループディスカッション

8	実習・就職指導②	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
9	実習・就職指導③	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
10	実習・就職指導④	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
11	実習・就職指導⑤	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
12	実習・就職指導⑥	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
13	実習・就職指導⑦	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
14	実習・就職指導⑧	企業研究・模擬面接・グループディスカッション
15	実習・就職指導⑨	企業研究・模擬面接・グループディスカッション

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	調剤薬局概論Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	調剤薬局概論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	できる薬剤師をつくる現場の教科書		出版社	株式会社じほう	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①調剤薬局での基本業務を理解する。②調剤薬局での薬剤師業務を理解する。③保険制度について理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・調剤薬局での調剤業務について説明ができる。 ・処方箋から必要事項を読み取ることができる。 ・かかりつけ薬局のメリットについて説明ができる。 ・ジェネリック医薬品について患者さまにわかりやすく説明ができる。 ・お薬手帳の活用や薬剤師の服薬指導について具体的に述べるができる。 				
評価基準	定期試験60%、小テスト及びレポート20%、授業態度20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	調剤薬局事務検定				
関連科目	調剤薬局概論Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	杉木 敦子		実務経験	○	
実務内容	医療従事者に対する基礎講座や調剤薬局薬剤師として、患者様に対する服薬指導歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	調剤薬局概論の流れと到達目標について
2	法規・制度・保険請求の常識①	医薬分業とかかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師
3	法規・制度・保険請求の常識②	医療保険と保険薬局
4	法規・制度・保険請求の常識③	調剤報酬の算定とレセプト
5	法規・制度・保険請求の常識④	個人情報保護法と副作用報告

6	服薬指導の常識①	服薬指導とお薬手帳
7	服薬指導の常識②	お薬手帳と薬歴管理
8	服薬指導の常識③	ハイリスク薬について
9	振り返り	小テストおよびレポートを実施する
10	日常業務の常識①	調剤技術と在庫管理
11	日常業務の常識②	処方箋と疑義照会
12	日常業務の常識③	一包化、粉碎、脱カプセル
13	日常業務の常識④	麻薬の取り扱い
14	テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	調剤薬局概論Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	調剤薬局概論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	できる薬剤師をつくる現場の教科書		出版社	株式会社じほう	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①調剤薬局での基本業務を理解する。②調剤薬局での薬剤師業務を理解する。③保険制度について理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・患者さまやご家族、地域医療のメンバーとのコミュニケーションの取り方が実践できる。 ・在宅医療においてできること、できないこと、すべきことが説明できる。 ・かかりつけ薬局のメリットについて説明ができる。 ・お薬手帳の活用や薬剤師の服薬指導について理解できる。 				
評価基準	定期試験60%、小テスト及びレポート30%、授業態度10%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	調剤薬局事務検定				
関連科目	調剤薬局概論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	杉木 敦子		実務経験	○	
実務内容	医療従事者に対する基礎講座や調剤薬局薬剤師として、患者様に対する服薬指導歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期の復習と日常業務の常識⑤	ジェネリック医薬品って何？
2	日常業務の常識⑥	薬剤師が作成する薬歴って何？
3	日常業務の常識⑦	医薬品情報を調べる
4	日常業務の常識⑧	ヒヤリ・ハットと調剤過誤
5	服薬指導の常識④	薬の飲みやすさと服用の工夫

6	服薬指導の常識⑤	小児および高齢患者の服薬指導
7	1～6の振り返り	これまでの内容の確認
8	コミュニケーションの常識①	ファーマシューティカルコミュニケーションと地域医療
9	コミュニケーションの常識②	クレーム対応術を習得、認知症の人との向き合い方
10	コミュニケーションの常識③	伝わる情報共有の秘訣と疑義照会
11	コミュニケーションの常識④	疑義照会とトレーシングレポート
12	在宅の常識①	在宅医療と患者宅・介護施設での薬剤師業務
13	在宅の常識②	バイタルサインとフィジカルアセスメント
14	定期テスト	期末テスト
15	解説・振り返り	テストの解説および総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	薬理学Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	薬理学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	「よくわかる薬理学の基本としくみ」		出版社	秀和システム	

科目の基礎情報②

授業のねらい	くすりの作用機序の基本を理解する。				
到達目標	解剖生理学の基礎をもとに、くすりが体内でどのように動き、作用を発揮するかを理解することができる。さまざまな疾患を病態し、各疾患においてどのようなくすりを選択されるかを理解することができる。				
評価基準	小テスト：40%、理解度テスト：40%、授業態度・課題レポート等：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者、動物用医薬品登録販売者、調剤事務				
関連科目	基礎医薬品、生薬・漢方学、解剖生理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	鶴見 健		実務経験	○	
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	1 「くすり」とはどのようなもの？	薬理学とはなにか、くすりの定義、くすり毒の違い
2	2 くすりが教えてくれたこと	受容体の発見、細胞のしくみ
3	2 くすりが教えてくれたこと	受容体の考え方、用量-反応曲線、作動薬と遮断薬
4	3 くすりの用法	経口薬と坐薬、注射薬
5	3 くすりの用法	吸入薬と外用薬、くすりの処理と排泄、濃度変化、服用方法
6	4 有害作用とさじ加減	常用量と中毒量、主作用と副作用、特異体質とアレルギー反応
7	理解度テストの実施	第1回から第6回までの総復習と理解度テストの実施

8	5 自律神経とくすり	交感神経と副交感神経
9	5 自律神経とくすり	交感神経・副交感神経に作用する薬、自律神経節遮断薬
10	6 心臓に作用するくすり	心臓のリズムのしくみ、不整脈のしくみと原因
11	6 心臓に作用するくすり	抗不整脈薬、強心薬、狭心症治療薬
12	7 血圧とくすり	血圧のしくみ、高血圧の定義、薬物療法
13	8 消化器系とくすり	内臓痛とその他の腹痛、消化性潰瘍治療薬、止瀉薬と瀉下薬、整腸薬など
14	理解度テスト	第9回から第13回までの総復習と理解度テストの実施
15	これまでの振り返り	理解度テストの振り返り、これまで学習した内容の総復習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	薬理学Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	薬理学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	「よくわかる薬理学の基本としくみ」		出版社	秀和システム	

科目の基礎情報②

授業のねらい	くすりの作用機序の基本を理解する。				
到達目標	さまざまな疾患とその発症メカニズムを理解し、各疾患に用いられるくすりの種類、作用機序を説明することができる。				
評価基準	小テスト：40%、理解度テスト：40%、授業態度・課題レポート等：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者、動物用医薬品登録販売者、調剤事務				
関連科目	基礎医薬品、生薬・漢方学、解剖生理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	鶴見 健		実務経験	○	
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	9 炎症反応とくすり	炎症と免疫反応、予防接種、アレルギーの種類
2	9 炎症反応とくすり	ステロイド性消炎薬、非ステロイド性抗炎症薬
3	10 病原体とくすり	感染症のしくみと免疫
4	10 病原体とくすり	抗感染症薬の作用および有害作用
5	11 おしっことくすり	利尿薬、腎臓病、尿路感染症、排尿障害、高尿酸血症、痛風
6	12 糖尿病薬、高脂血症治療薬	糖尿病、高脂血症（脂質異常症）と治療薬
7	理解度テストの実施	第1回から第6回までの総復習と理解度テストの実施

8	13 呼吸器とくすり	咳・痰のしくみと鎮咳去痰薬
9	13 呼吸器とくすり	喘息のしくみと気管支拡張薬
10	14 脳とくすり	脳および神経系のしくみ、抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬、抗パーキンソン病薬
11	14 脳とくすり	麻薬性鎮痛薬、頭痛薬
12	15 麻酔薬	麻酔のしくみ、局所麻酔薬と全身麻酔薬
13	16 市販薬とサプリメント	OTC、サプリメント、ビタミンやミネラルの定義・種類等
14	理解度テスト	第9回から第13回までの総復習と理解度テストの実施
15	これまでの振り返り	理解度テストの振り返り、これまで学習した内容の総復習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎医薬品Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	基礎医薬品Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	よくわかる一般用医薬品 第2刷		出版社	薬事日報社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	医薬品を取り扱う専門家として一般用医薬品で使用されている成分の特徴・働き・副作用等の医薬品に対する専門的知識を習得する。				
到達目標	登録販売者試験第3章に対応できる知識を持つ				
評価基準	テスト30%、小テスト30%、提出物20%、AL20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者				
関連科目	薬理学、解剖生理学、生薬・漢方学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	鶴見 健		実務経験	○	
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	基礎医薬品に配合される各配合成分の役割について
2	アドレナリン作動成分	①アドレナリンとは ②アドレナリン作動成分の働き アドレナリン作動成分が配合されている医薬品について/小テスト
3	抗コリン成分	①コリンとは ②抗コリン成分の働きに関して ①抗コリン成分が配合されている一般用医薬品に関して ②アセチルコリンに関連するその他の医薬品成分について/小テスト
4	アドレナリン/抗コリン成分	①アドレナリン作動成分が配合されている医薬品 ②抗コリン成分が配合されている医薬品/小テスト
5	局所麻酔成分	①局所麻酔成分とは ②局所麻酔成分の働き ③局所麻酔成分が配合されている一般用医薬品 /小テスト
6	抗ヒスタミン成分①	①ヒスタミンとは ②抗ヒスタミンの働き ③抗ヒスタミン成分が配合されている医薬品 ④ヒスタミンに関連するその他の医薬品成分 /小テスト
7	解熱鎮痛成分①	①解熱・鎮痛とは ②解熱鎮痛成分の働き/小テスト

8	解熱鎮痛成分②	①解熱鎮痛成分が配合されている医薬品 ②COX阻害作用に関連するその他の医薬品成分 /小テスト
9	ステロイド成分	①ステロイドとは ②ステロイド成分の働きと配合されている医薬品 ③抗炎症作用を持つその他の医薬品成分 /小テスト
10	鎮静成分	①鎮静とは ②鎮静成分の働きと配合されている医薬品 ③覚醒成分が配合されている医薬品 /小テスト
11	鎮咳成分	①咳とは ②鎮咳成分の働きと配合されている医薬品 ③鎮咳成分が配合されている医薬品 ④去痰成分が配合されている医薬品 /小テスト
12	高コレステロール改善成分	①コレステロールとは ②コレステロールはどんな悪さをするのか ③高コレステロール改善成分の働きと配合されている医薬品 /小テスト
13	抗凝固成分	①凝血とは ②抗凝結成分の働きと抗凝血成分が配合されている医薬品 ③凝血成分が配合されている医薬品 /小テスト
14	強心成分/期末試験	①強心とは ②強心成分の働きと配合されている医薬品成分 ③減負荷成分が配合されている医薬品 /テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎医薬品 II		
必修選択	選択	(学則表記)	基礎医薬品 II		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	よくわかる一般用医薬品 第2刷		出版社	薬事日報社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	医薬品を取り扱う専門家として一般用医薬品で使用されている成分の特徴・働き・副作用等の医薬品に対する専門的知識を習得する。				
到達目標	登録販売者試験第3章に対応できる知識を持つ				
評価基準	テスト30%、小テスト30%、提出物20%、AL20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者				
関連科目	薬理学、解剖生理学、生薬・漢方学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	鶴見 健		実務経験	○	
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	振り返りと後期授業の進め方
2	酵素成分	①酵素とは ②酵素成分の働き ③酵素成分が配合されている医薬品 ④利胆成分が配合されている医薬品⑤胃壁保護成分が配合されている医薬品 /小テスト
3	収斂成分	①収斂成分とは ②収斂成分の働き ③収斂成分の配合されている医薬品 /小テスト
4	保水成分	①保水とは ②保水成分の働き ③保水成分が配合されている医薬品 /小テスト
5	刺激成分	①刺激とは ②刺激成分の働き ③刺激成分が配合されている働き /小テスト
6	ホルモン成分	①ホルモンとは ②ホルモンの働き ③ホルモン成分が配合されている医薬品 /小テスト
7	ミネラル成分①	①ミネラルとは ②ミネラルがもたらす薬効とは ③K、Mg、Ca、Al /小テスト

8	ミネラル成分②/ビタミン成分①	④F e、亜鉛、銅、コバルト、マンガン、硫黄、その他アミノ酸成分/ ①ビタミンとは ②ビタミンがもたらす薬効とは ③V A、V D、V E、V K、V C /小テスト
9	ビタミン成分②	①V B 1、V B 2、V B 3、V B 5、V B 6、V B 7、V B 9、V B 1 2、V U、その他 /小テスト
10	殺菌消毒成分①	①殺菌消毒とは ②殺菌消毒成分が配合されている医薬品 /小テスト
11	殺菌消毒成分②	①抗菌・抗真菌作用を持つ医薬品 ②その他の成分（駆虫成分、殺虫成分） /小テスト
12	生菌成分	①生菌とは ②生菌成分の働き ③生菌成分が配合されている医薬品 /小テスト
13	生薬成分/ 漢方処方製剤	①生薬とは ②生薬成分が配合されている医薬品 ①漢方とは②一般用医薬品として用いられる漢方処方製剤 /小テスト
14	テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	生薬・漢方学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	生薬・漢方学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	①登録販売者試験 受験対策共通テキスト改訂版 下巻 及び過去問題集 ②現代医療における漢方薬		出版社	①日本薬業研修センター ②南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者試験に合格するため最低必要な、漢方の特徴、代表的な漢方処方製剤、生薬成分の主な副作用、相互作用についての知識を身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 漢方について理解をし、症状に合わせた漢方薬を説明できる 様々な症状のお客さまに対しどの漢方薬が適切か理解することができる 				
評価基準	テスト70%（半期に2回） 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上のもの				
関連資格	登録販売者資格試験				
関連科目	薬理学、 基礎医薬品、 薬学概論、薬事関係法規・制度、解剖生理学				
備考					
担当教員	土田 勝己		実務経験	○	
実務内容	店長として9年、店舗運営部スーパーバイザー（エリアマネージャー13店舗統括）として4年の勤務経験あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	漢方処方製剤・生薬成分	教科書ⅩⅣ 1) 漢方の特徴・漢方薬使用における基本的な考え方 「証」とは
3	漢方処方製剤・生薬成分	教科書ⅩⅣ 1) 漢方の特徴・漢方薬使用における基本的な考え方 「陰陽」とは
4	漢方処方製剤・生薬成分	教科書ⅩⅣ 2) 代表的な漢方処方製剤、適応となる症状・体質、主な副作用
5	漢方処方製剤・生薬成分	教科書ⅩⅣ 3) 相互作用、受診勧奨 その他の生薬成分
6	3章主な医薬品とその作用	精神神経に作用する薬 かぜ薬（漢方・生薬）

7	3章主な医薬品とその作用	精神神経に作用する薬 解熱鎮痛薬 (漢方・生薬)
8	3章主な医薬品とその作用	精神神経に作用する薬 眠気を促す成分 鎮うん薬 (乗り物防止薬)
9	3章主な医薬品とその作用	精神神経に作用する薬 小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤 (小児鎮静薬)
10	3章主な医薬品とその作用 テスト	呼吸器官に作用する薬 生薬成分・漢方処方製剤 テスト(1回目)
11	3章主な医薬品とその作用	呼吸器官に作用する薬 生薬成分・漢方処方製剤
12	総まとめ	総まとめ 教科書は「現代医療における漢方薬」
13	総まとめ	総まとめ 教科書は「現代医療における漢方薬」
14	まとめ・テスト	テスト(2回目)学習した範囲の過去問題から出題
15	解説・振り返り	テストの解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	生薬・漢方学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	生薬・漢方学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	①登録販売者試験 受験対策共通テキスト改訂版 下巻 及び過去問題集 ②現代医療における漢方薬		出版社	①日本薬業研修センター ②南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者試験に合格するため最低必要な、漢方の特徴、代表的な漢方処方製剤、生薬成分の主な副作用、相互作用についての知識を身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 漢方について理解をし、症状に合わせた漢方薬を説明できる 様々な症状のお客さまに対しどの漢方薬が適切か理解することができる 				
評価基準	テスト70%（半期に2回） 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上のもの				
関連資格	登録販売者資格試験				
関連科目	薬理学、基礎医薬品、薬学概論、薬事関係法規・制度、解剖生理学				
備考					
担当教員	土田 勝己		実務経験	○	
実務内容	店長として9年、店舗運営部スーパーバイザー（エリアマネージャー13店舗統括）として4年の勤務経験あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	3章主な医薬品とその作用	胃腸に作用する薬 健胃成分（生薬成分）
2	3章主な医薬品とその作用	胃腸に作用する薬 健胃成分（生薬成分）
3	3章主な医薬品とその作用	胃腸に作用する薬 健胃成分（漢方処方製剤）
4	3章主な医薬品とその作用	心臓などの臓器や血液に作用する薬
5	3章主な医薬品とその作用	心臓などの臓器や血液に作用する薬
6	3章主な医薬品とその作用	排泄に関わる部位に作用する薬 内用、外用痔疾用薬

7	3章主な医薬品とその作用	排泄に関わる部位に作用する薬 泌尿器用薬
8	3章主な医薬品とその作用 テスト	婦人薬 テスト(1回目)
9	3章主な医薬品とその作用	内服アレルギー用薬
10	3章主な医薬品とその作用	皮膚に用いる薬・歯や口中に用いる薬
11	3章主な医薬品とその作用	滋養強壮保健薬
12	総まとめ	総まとめ 教科書は「現代医療における漢方薬」
13	総まとめ	総まとめ 教科書は「現代医療における漢方薬」
14	テスト(2回目)	学習した範囲の過去問題から出題
15	解説・振り返り	テストの解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	薬事関係法規・制度Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	薬事関係法規・制度Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	カラー図解よくわかる薬規法医薬品販売制度編		出版社	薬事日報社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	薬機法は、医薬品販売業や調剤薬局等、医薬品を扱う全ての業種において、その理解と遵守が求められる。また登録販売者試験の出題領域であるため、本法律を読み解く力を身に付ける。				
到達目標	①登録販売者試験に出題されるポイントを理解し、問題演習（過去問題）を通じて試験の傾向を知る。 ②医薬品に関わる者として、必要な法知識を理解する。				
評価基準	定期試験：50%（2回） 小テスト：50%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	登録販売者資格試験				
関連科目	資格試験対策（2年前期）、医療品の安全対策と副作用（2年前期）				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	鶴見 健		実務経験	○	
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	薬機法第一条・第二条
2	第1章 医薬品の分類	1 医薬品の三つの分類
3	第1章 医薬品の分類	1 医薬品の三つの分類
4	第1章 医薬品の分類	2 一般用医薬品の三つの区分
5	第1章 医薬品の分類	3 医薬品の販売に従事する者 4 登録販売者制度
6	中間テスト	中間テスト
7	第2章 薬局と医薬品販売業	1 薬局と医薬品販売業

8	第2章 薬局と医薬品販売業	2 薬局
9	第2章 薬局と医薬品販売業	3 店舗販売業
10	第2章 薬局と医薬品販売業	4 配置販売業
11	第3章 薬局、医薬品販売業の業務体制	1 薬局、医薬品販売業の業務管理 2 薬局開設者、店舗販売業者、配置販売業者の責務 3 医薬品の陳列、貯蔵の場所
12	第3章 薬局、医薬品販売業の業務体制	4 情報提供、指導の場所 5 薬局、店舗販売業、配置販売業の業務体制 6 薬剤師、登録販売者、一般従事者の名札
13	第3章 薬局、医薬品販売業の業務体制	7 薬局、店舗販売業、配置販売業に関する情報 8 医薬品の広告 9 障害を持つ勤務者に対する措置
14	期末テスト	期末テスト
15	第4章 医薬品の販売、情報提供と指導	栄養機能食品&まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	薬事関係法規・制度Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	薬事関係法規・制度Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	カラー図解よくわかる薬規法医薬品販売制度編		出版社	薬事日報社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	薬機法は、医薬品販売業や調剤薬局等、医薬品を扱う全ての業種において、その理解と遵守が求められる。また登録販売者試験の出題領域であるため、本法律を読み解く力を身に付ける。				
到達目標	①登録販売者試験に出題されるポイントを理解し、問題演習（過去問題）を通じて試験を突破できる実力をつける。 ②医薬品に関わる者として、卒業後あらゆる進路において業務に必要な法知識を習得する。				
評価基準	定期試験：50%（2回） 小テスト：50%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	登録販売者資格試験				
関連科目	薬事関係法規・制度Ⅰ（1年前期） 資格試験対策（2年前期）、医療品の安全対策と副作用（2年前期）				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	鶴見 健	実務経験	○		
実務内容	登録販売者としてドラッグストアで4年間、調剤薬局で3年間、調剤併設ドラッグストアで2年間勤務歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第4章 医薬品の販売、 情報提供と指導	1 医薬品の販売の方法 1) 薬局医薬品、要指導医薬品の販売方法
2	第4章 医薬品の販売、 情報提供と指導	1 医薬品の販売の方法 2) 一般用医薬品の販売方法
3	第4章 医薬品の販売、 情報提供と指導	2 医薬品の情報提供と指導の方法
4	第4章 医薬品の販売、 情報提供と指導	3 調剤された薬剤の販売の方法
5	第4章 医薬品の販売、 情報提供と指導	4 医薬品販売に関するその他の規制
6	中間テスト	中間テスト
7	第5章 特定販売	1 特定販売とは

8	第5章 特定販売	2 特定販売を行うには
9	第5章 特定販売	3 特定販売の方法 4 特定販売における情報提供 5 インターネットモール事業者の協力
10	第6章 医薬品の市販後安全対策と添付文章	1 医薬品の安全性情報の収集、検討、提供
11	第6章 医薬品の市販後安全対策と添付文章	1 医薬品の安全性情報の収集、検討、提供
12	第6章 医薬品の市販後安全対策と添付文章	2 医薬品の表示と添付文書
13	第6章 医薬品の市販後安全対策と添付文章	2 医薬品の表示と添付文書
14	期末テスト	期末テスト
15	薬機法のまとめ	1年間のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	解剖生理学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	解剖生理学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	登録販売者試験 受験対策共通テキスト改訂版 上巻		出版社	日本薬業研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者として必要な医学知識を身に付け、並行して主な疾患と薬との関係性を学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖生理学（人体の仕組みと働き）を学び、薬の体への吸収・代謝・排泄を理解することができる。 ・医学知識と薬理学の大切さを知り、登録販売者への専門的な意識を高める。 				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間の3分の2以上ある者。 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者				
関連科目	解剖生理学Ⅱ、薬理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	杉木 敦子		実務経験	○	
実務内容	調剤薬局薬剤師として、現場実務指導歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第2章 人体の構造と働き 人体の構造Ⅰ細胞	総論：解剖生理学とは何か、登録販売者として学ぶ理由・大切さを理解する。 人体の構造と働き：これから学ぶ解剖生理学の内容について知る。 「細胞」から始まる人体の仕組みを知る。
2	人体の構造Ⅱ 消化器系①②	消化管・消化腺について、消化について：それぞれの名称を理解する。 口腔内の各部の名称と働きを理解する。唾液の消化酵素や咽頭について理解する。 胃、腸の各部の名称と消化器ルートを理解する。
3	消化器系③④	消化器系の働きについて：胆嚢と肝臓のはたらきについて理解する。大腸・肛門部周辺の名称を覚える。

4	消化器系のまとめ 人体の構造Ⅲ 呼吸器系①	消化器系ポイント1～7のまとめ。小テストを実施し、解説を受け理解を深める。 呼吸器系の働きについて：肺の解剖生理について理解する。
5	呼吸器系② 人体の構造Ⅳ 循環器系①	呼吸器系の働きについて：肺胞で行われるガス交換について理解する。 循環器系の働きについて：心臓の解剖生理について（心臓の構造）や血管（動脈、静脈、毛細血管）について理解する。
6	循環器系②③	循環器系の働きについて：全身を循環する血液の流れと、血液の組成について理解する。白血球と血小板の働きについて理解する。
7	循環器系④ 呼吸器系と循環器系のまとめ	循環器系の仕組み：血液と組織液・細胞の関係を理解する。 呼吸器系と循環器系のまとめ、小テストを実施し、解説を受け理解を深める。
8	人体の構造Ⅴ 泌尿器系①②	泌尿器系の働きについて：腎臓の中の構造を理解する。糸球体における濾過について理解する。
9	泌尿器系のまとめ 人体の構造Ⅵ 感覚器系①	泌尿器系のまとめ、小テストを実施し、解説を受け理解を深める。 感覚器系の働きについて：眼について各部の名称と働きを理解する。
10	感覚器系②③	感覚器系の働きについて：眼瞼（まぶた）、結膜、涙の通路、眼筋の働きを理解する。鼻腔と副鼻腔、耳の主な名称を理解する。
11	感覚器系④⑤	感覚器系の働きについて：耳（外耳・中耳・内耳）の構造、働きを理解する。皮膚の役割と構造について理解する。
12	感覚器系のまとめ 人体の構造Ⅶ 骨格・筋肉系①	感覚器系のまとめ、小テストを実施し、解説を受け、理解を深める。骨の中の各部の名称を覚え、構造を理解する。
13	骨格・筋肉系②③ 骨格・筋肉系のまとめ 人体の構造Ⅷ 神経系①	筋肉の働きについて：骨の役割を理解し、体の骨と体の筋肉の名称を覚える。筋組織の分類について理解する。 神経系の仕組みと働きについて：中枢神経と末梢神経について理解する。 神経系の仕組み：自律神経（交感神経と副交感神経）を理解する。

14	前期の総まとめテスト	まとめテストを実施する。 過去問題集を解き、間違いは必ず見直しを行い、学習の成果をあげる
15	前期の総まとめ	前期内容のまとめテストを振り返り、解説を受け、理解を深める。 過去問題集を解き、間違いは必ず見直しを行い、学習の成果をあげる

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	解剖生理学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	解剖生理学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	登録販売者試験 受験対策共通テキスト改訂版 上巻		出版社	日本薬業研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者として必要な医学知識（主な疾患）と、病気に使用する薬の副作用の知識を身に着ける。				
到達目標	正しい医学知識のもとで、それぞれのお客様に的確なアドバイスが出来る。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間の3分の2以上ある者。 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者				
関連科目	解剖生理学Ⅰ、薬理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	杉木 敦子		実務経験	○	
実務内容	調剤薬局薬剤師として、現場実務指導歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第2章 人体の働きと医薬品 薬が働く仕組み①	総論：解剖生理学を踏まえた上で、薬の働く仕組みや副作用等、基本的な知識を学ぶ。 薬の作用について（全身作用と局所作用）、薬の各吸収部位と代謝について理解する。
2	薬が働く仕組み②③	体内で吸収された薬の代謝について詳しく理解する。 薬の作用や吸収、代謝について要点確認チェックを解いて、説明を聞き理解を深める。
3	薬が働く仕組み④ 薬が働く仕組みの まとめ小テスト	薬の種類（剤形）や、個体（人）に及ぼす影響について理解する。 薬が働く仕組み①～④までの小テストを実施し、説明を聞き理解を深める。

4	症状からみた主な副作用①②	1) 全身的に現れる副作用について理解する。 ショック（アナフィラキシー）について症状や、原因となる主な薬を知る。
5	症状からみた主な副作用③④	皮膚粘膜障害について症状や、主な原因となる薬を知る。 肝機能障害について種類や症状、原因となる主な薬を知る。
6	症状からみた主な副作用⑤⑥	偽アルドステロン症について理解する。 病気に対する抵抗力低下の生理を理解する。
7	症状からみた主な副作用の まとめ小テスト1 症状からみた主な副作用⑦	副作用から見た副作用①～⑥までの小テストを実施し、説明を聞き理解を深める。 2) 精神神経系に現れる副作用について理解する。精神神経障害について知る。
8	症状からみた主な副作用⑧⑨	3) 体の局所に現れる副作用について理解する。消化器系について知る。 その他：不適切な薬の長期連用について学ぶ。
9	症状からみた主な副作用⑩ 症状からみた主な副作用の まとめ小テスト2	3) 体の局所に現れる副作用について理解する。消化器系について知る。 症状から見た副作用⑦～⑩の小テストを実施し、解説を受け理解を深める。
10	症状からみた主な副作用⑪⑫	呼吸器系について知る。間質性肺炎、喘息について学び、使用する薬の副作用を理解する。 循環器系について知る。鬱血性心不全について学び、使用する薬の副作用を理解する。
11	症状からみた主な副作用の まとめ小テスト3 症状から見た主な副作用⑬	症状から見た副作用⑪～⑫の小テストを実施し、説明を聞き理解を深める。 泌尿器系について知る。主な泌尿器疾患について学び、その使用する副作用を理解する。
12	症状からみた主な副作用⑭⑮	感覚器系について知る。緑内障について学び、その使用する薬の副作用を理解する。 皮膚に現れる副作用について知る。接触性皮膚炎、光線過敏症、薬疹について学び、その使用する薬の副作用を理解する。
13	症状からみた主な副作用⑯ 症状からみた主な副作用の まとめ小テスト4	外用薬の使用部位の症状について理解する。 症状から見た副作用⑬～⑯の小テストを実施し、解説を受け理解を深める。
14	後期の総まとめテスト	まとめテストを実施する。 過去問題集を解き、間違いは必ず見直しを行い、学習の成果をあげる

15	後期総まとめ 過去問題集での演習	後期内容のまとめテストを振り返り、解説を受け、理解を深める。 過去問題集を解き、間違いは必ず見直しを行い、学習の成果をあげる
----	---------------------	---

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	調剤薬局事務Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	調剤薬局事務Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	調剤事務講座 テキスト一式		出版社	日本医療事務協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療機関と保険薬局との関係性を知り、保険薬局における調剤事務員の役割と主な調剤報酬算定業務の深い知識を習得する。医療保険、保険調剤の仕組みを理解し、調剤報酬算定以外にも対応できる知識を身につける				
到達目標	医療機関と保険薬局との関係性を知り、保険薬局における調剤事務員の役割を述べることができる 医療保険、保険調剤の仕組みを理解し、ポイントを述べるができる 調剤薬局事務検定に合格することができる				
評価基準	評価テスト50% 小テスト30% 提出物/授業態度20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	調剤薬局事務検定				
関連科目	調剤薬局事務Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	杉木 敦子		実務経験	○	
実務内容	調剤薬局薬剤師として、現場実務指導歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保険調剤	医療保険の仕組み（被保険者、被扶養者、保険医療機関、保険薬局の関係）、法別番号
2	保険調剤	保険調剤の仕組み、医薬分業について、処方箋の知識
3	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	処方箋の見方、調剤報酬点数表の構成、算定の原則、薬価計算（五捨五超入）
4	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	レセプトの記載方法（上書き）、調剤基本料、薬学管理料の算定とレセプトの作成
5	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	調剤料（内服薬）、計量混合調剤加算 ※処方箋問題集No.1～2
6	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	調剤料（屯服薬）、時間外加算 ※処方箋問題集No.3～4
7	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	一般名処方、調剤料（外用薬） ※処方箋問題集No.5～6

8	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	乳幼児、麻薬処方（麻薬加算、麻薬処方箋の取り扱い）、予製剤 ※処方箋問題集No.7～8
9	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	自家製剤加算、夜間・休日等加算 ※処方箋問題集No.9
10	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	乳幼児、休日加算 ※処方箋問題集No.10
11	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	漢方（浸煎薬・湯薬） ※処方箋問題集No.11～12
12	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	内服用滴剤、かかりつけ薬剤師指導料 ※処方箋問題集No.13～14
13	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	漸減療法 ※処方箋問題集No.15
14	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	隔日投与 ※処方箋問題集No.17
15	まとめ	調剤録、調剤レセプト作成

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	調剤薬局事務Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	調剤薬局事務Ⅱ		
開講					
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	単位数	1
時間数					30
使用教材	調剤事務講座 テキスト一式		出版社	日本医療事務協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療機関と保険薬局との関係性を知り、保険薬局における調剤事務員の役割と主な調剤報酬算定業務の深い知識を習得する。医療保険、保険調剤の仕組みを理解し、調剤報酬算定以外にも対応できる知識を身につける				
到達目標	医療機関と保険薬局との関係性を知り、保険薬局における調剤事務員の役割を述べることができる 医療保険、保険調剤の仕組みを理解し、ポイントを述べるができる 調剤薬局事務検定に合格することができる				
評価基準	模試50% 小テスト30% 提出物/授業態度20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	調剤薬局事務検定				
関連科目	調剤薬局事務Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	杉木 敦子	実務経験	○		
実務内容	調剤薬局薬剤師として、現場実務指導歴あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	前期復習 一包化加算※処方箋問題集No.18
2	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	一包化加算 ※処方箋問題集No.19
3	調剤報酬の算定 レセプトの記載方法	同日受付 ※処方箋問題集No.16・20
4	薬の基礎知識	薬物治療の概要、医薬品の開発、医薬品の名前、薬の体内動態
5	薬の基礎知識	薬の作用と適用、後発医薬品の普及促進の必要性について
6	1月の検定対策	調剤検定の概要、学科問題 ※模擬問題集
7	1月の検定対策（模試）	模擬問題

8	1月の検定対策（模試）	模擬問題
9	1月の検定対策（模試）	模擬問題
10	1月の検定対策（模試）	模擬問題
11	1月の検定対策（模試）	模擬問題
12	公費負担医療	公費負担医療の仕組みについて 医療法
13	公費負担医療適用の調剤報酬算定 レセプトの記載方法	生活保護
14	公費負担医療適用の調剤報酬算定 レセプトの記載方法	特定疾患、小児慢性特定疾患
15	総括	各自作成したレセプトを使用し総括を行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	CRC		
必修選択	選択	(学則表記)	CRC		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	スライド教材 (ppt資料)		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	新しいくすりがどのようにして世の中に出るか、またその際にどのようなコンプライアンスが求められるかを学び、信頼されるくすりの専門家としての教養、知識を高める。				
到達目標	CRC (治験コーディネーター) として臨床現場で活躍できる人材の育成、および臨床知識が豊富で消費者から信頼される登録販売者の育成を目標とする。				
評価基準	レポート70%、確認テスト30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	登録販売者、CRC (治験コーディネーター)				
関連科目	薬事関係法規、基礎医薬品、薬理学、薬学概論、資格試験対策				
備考	原則、この科目はオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。				
担当教員	中村 祐大		実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	受講のオリエンテーション Ⅰ：くすりの歴史と特性	受講の仕方について知る。 くすりの発見と進化の歴史
2	Ⅰ：くすりの歴史と特性	くすりの発見と進化の歴史つづき、くすりに求められる性質
3	Ⅰ：くすりの歴史と特性	くすりの投与経路と体内動態
4	Ⅱ：くすりの業界と動向	世界における製薬業界の動向
5	Ⅱ：くすりの業界と動向	日本における製薬業界の動向
6	Ⅱ：くすりの業界と動向	その他の業界の動向 (薬局および医薬品販売業)
7	Ⅱ：くすりの業界と動向	その他の業界の動向 (治験業界)

8	III 新しくすりができるまで	新しくすりをつくる理由
9	III 新しくすりができるまで	新薬の開発①基礎研究
10	III 新しくすりができるまで	新薬の開発②非臨床試験：前半
11	III 新しくすりができるまで	新薬の開発②非臨床試験：後半
12	III 新しくすりができるまで	新薬の開発③臨床試験：前半
13	III 新しくすりができるまで	新薬の開発③臨床試験：後半
14	III 新しくすりができるまで	新薬の開発④製造販売・承認申請
15	III 新しくすりができるまで	新薬の開発⑤倫理・関係法規・その他
16	IV 治験に関わる組織と業務	治験に関わる人と組織：前半（治験依頼者と治験実施者）
17	IV 治験に関わる組織と業務	治験に関わる人と組織：後半（治験実施者つづき）
18	IV 治験に関わる組織と業務	治験で実施される業務 1：（治験の流れにおけるCRCの業務等）
19	IV 治験に関わる組織と業務	治験で実施される業務 2：（CRCおよび治験依頼者の業務等）
20	IV 治験に関わる組織と業務	治験で実施される業務 3：（治験依頼者の業務、守秘義務等）
21	V CRCに必要な臨床知識	医療機関の種類
22	V CRCに必要な臨床知識	医療機関で働く人々、検査とその種類
23	V CRCに必要な臨床知識	検査とその種類 つづき
24	V CRCに必要な臨床知識	検査値からわかること 1：肝臓、腎臓
25	V CRCに必要な臨床知識	検査値からわかること 2：心臓、膵臓・糖代謝、脂質代謝関連
26	V CRCに必要な臨床知識	検査値からわかること 3：その他の検査項目
27	VI くすりの現在と未来	科学技術の進歩と新薬 1
28	VI くすりの現在と未来	科学技術の進歩と新薬 2
29	VI くすりの現在と未来	科学技術の進歩と新薬 3
30	VI くすりの現在と未来	薬害から人々を守る、医薬品の専門家に必要な倫理観